

\* 中学校(学級)における実践④(11月)

「キッパリ拒否する練習をしよう」(ソーシャルスキルトレーニング)

○ 本時のねらい

- ・ 自分を大切にすることの意義や大切さを理解する。
- ・ 断り方を身に付け、やっではないけないことに誘われても拒否をする仕方を学ぶ。

○ 展開 (50分)

学 習 活 動	教師の働き掛け	準備物
<p>1 本時のめあてを知る。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>キッパリ拒否する練習をしよう</p> </div> <p>2 授業を進める上での約束を確認する。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">約 束</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 恥ずかしがらない。</li> <li>・ 冷やかさない。</li> <li>・ よいところを見つける。</li> </ul> </div> <p>3 ウォーミングアップで、「ジャンケンポンポンゲーム」を行う。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>『ジャンケンポンポンゲーム』</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教師とジャンケンをする。</li> <li>・ 教師が出した後に後出しをする。</li> <li>・ 1回目は必ず教師に勝つように出す。そのゲームを5回繰り返す。</li> <li>・ 2回目は必ず教師に負けるように出す。そのゲームを5回繰り返す。</li> </ul> </div> <p>4 モデリングを見て、拒否の仕方のポイントを知る。</p> <p>(1) 4つの拒否の仕方のモデリングを見る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>I 消極的な拒否の仕方</li> <li>II 相手を大切にしない拒否の仕方</li> <li>III 自分を大切にしない拒否の仕方</li> <li>IV ポイントを意識した拒否の仕方</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 毎日の生活の中で、やっではないけないことに誘われたとき拒否をした経験はないか尋ねる。</li> <li>・ 約束が必要な理由を添えて説明する。</li> <li>・ 学習内容が不当な要求などを拒否する練習であるため、モデリングの前に、生徒の気持ちをほぐす活動を取り入れる。</li> <li>・ モデリングは教師が行う。(T1、T2)</li> <li>・ モデリングは、ポイントが分かりやすいように大きさに演じる。</li> <li>・ どのモデリングがよかったのかを確認する。その後に、生徒がよかったと思うポイントについて発表するように促して、場面を再現す</li> </ul>	<p>モデリングシナリオ</p>

(2) 「拒否の仕方」のポイントをまとめる。

- 拒否の仕方のポイント
- ・距離をとる。
  - ・相手を見る。
  - ・聞こえる声で。
  - ・拒否する言葉を使う。

4 「拒否の仕方」の練習①をする。

(1) 4人組になり、ポイントに気を付けながら練習1をする。

(2) 練習①を振り返り、グループで確認する。

<生徒の活動の様子>

- ・「キッパリ拒否するポイントが分かった」
- ・「拒否の仕方のポイントが分かった」

(3) 振り返りシートに自己評価を書く。

5 「拒否の仕方」の練習②をする。

(1) 特に気を付けたい拒否の仕方のポイントや新しいポイントを作って、意識して練習する。

る。

・生徒に拒否の仕方のポイントを聞いて黒板にまとめる。

・役割を分担し、「拒否する役」と「相手役」を1人、「観察役」を2人決めて、全員が役割を交代して行うことを説明する。

・「観察役」は、4つのポイントができていたかを確認し、「拒否する役」の生徒にできたポイントを伝える。

・練習でポイントを使って拒否をしている生徒をほめる。

・再度、拒否するポイントについてグループで確認させる。

・ワークシートに、4つの場面の中から拒否の仕方の台詞を考えて、練習②を行うように説明する。

・練習①と同じように役割を分担して、全ての役を体験させる。

振り返りシート

<p>(2) 練習②を振り返り、グループで確認する。          &lt;生徒の活動の様子&gt;</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「練習②が自分の言葉で言う練習で、いいトレーニングだった」</li> <li>・「断り方にはいろんな方法があると思った」</li> </ul> </div> <p>(3) 振り返りシートに自己評価を書く。</p> <p>6 今日の学習のまとめをする。</p> <p>(1) 今日の活動を振り返り、振り返りシートに記入する。</p> <p>(2) チャレンジ週間での取り組み方を知る。</p>	<p>・どのようなときに拒否をするのか考えながら取り組ませる。</p>	<p>チャレンジ週間シート</p>
---	-------------------------------------	-------------------

《参考 URL》

- ・平成 22・23 年度佐賀県教育センタープロジェクト研究 小・中・高等学校教育相談研究委員会  
[http://www.saga-ed.jp/kenkyu/kenkyu\\_chousa/h23/06%20kyouiku-soudan/index.html](http://www.saga-ed.jp/kenkyu/kenkyu_chousa/h23/06%20kyouiku-soudan/index.html)

○振り返りシートより

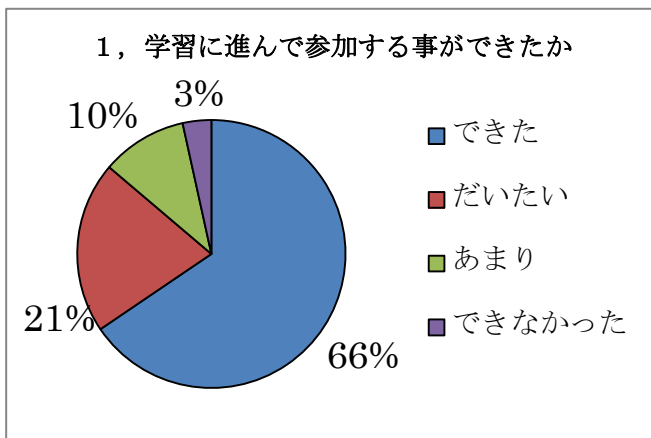


図1 授業のアンケート結果

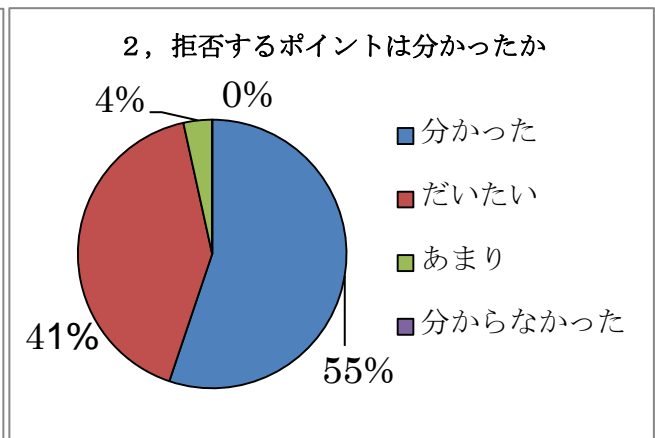


図2 授業のアンケート結果

<生徒の感想より>

- ・自分で拒否する会話を考えたので、普段の生活でも使っていこうと思った。
- ・断ることも大事だと思った。そういう場面で逃げたりすることも必要だと思った。
- ・以前に拒否の仕方が、分からなくて困っていたけど、拒否の仕方の練習をして、これから使えそう。
- ・練習②が自分の言葉で言う練習になり、いいトレーニングだった。これからも活かしたい。
- ・拒否をしたら、相手や自分のためになることがあると思うので、いけないことは拒否したい。
- ・断るときは、「いやだ」「ムリ」という1つの単語のようなもので返すのではなく、「私はそういうことは、いけないと思うから、君もやらない方が身のためだよ」というような拒否の仕方があることを知った。
- ・今日の授業で拒否の仕方が分かった。もしも拒否しなければならないときは、自分のこと相手のことを考えて断りたいと思います。

## ○授業を振り返って

授業前のアンケートでは、「正しくないことや嫌なことを誘われたとき、はっきり断っていますか」の問いに生徒は、49%が「よくしている」「だいたいよくしている」と答えている。日常の学級の様子を、この質問項目が他の項目より低く出ており、「キッパリ拒否する練習をしよう」に取り組むことにした。

授業の初めには、「やってはいけないことを誘われたとき、拒否したい経験はないですか」の問いに、数人の生徒が「ある」と答えた。授業前のアンケートも含めて、生徒たちはキッパリ拒否する場面があるものの、拒否の仕方のスキルが不足していると考えた。

3回目の授業で生徒たちは、練習への取り組み方の手順を理解でき、練習をスムーズに行うことができた。また、練習に対しては、恥ずかしがらずに積極的に行う生徒が増えた。

## 【集団について】

練習②は場面設定があり、拒否する言葉は練習①を踏まえて考えるようになっていた。生徒たちは台詞を考えて、練習②に取り組んだ。しかし、拒否する場面をイメージすることが難しく、時間が掛かった生徒が数人いた。今後は、機会を見つけて拒否するスキルを身に付けさせたい。

## 【個人について】

Aは、「分かりづらかった」と記述している。練習①では、「距離をとる」というポイントを意識しながら行っていたが、練習②については場面がイメージできず、拒否の仕方の言葉を思い付くことができなかったと考える。

Bは、「私もよく友人に誘われたりするけど、悪いことにはキッパリと断ろうと思いました」と記述している。Bは授業の初めから真剣に取り組む、練習のときはグループ活動で拒否の仕方のポイントを意識しながら積極的に練習を行った。「観察役」からよい評価を受けていた。この授業の後、友人と話をする際に、やってはいけないことに誘われても拒否をする場面が見られるようになった。

Dは、「今度、やってはいけないことに誘われても今日習ったことを生かしたいと思った」と記述している。Eは、「今日の授業で拒否の仕方が分かった。もしも、やってはいけないことに誘われても、自分のことや相手のことを考えて、キッパリ拒否したいと思います」と記述している。

D、Eは、拒否の仕方は理解できていても、実際の生活場面で拒否する行動に移すことができずにおり、個別に対応するようにした。

また、D、Eのように拒否の仕方のスキルを理解しているようであるが、実際の生活場面で拒否する行動に移すことができない生徒に対しては、随時、個別に対応し、繰り返し指導していく必要性があると強く感じる。